

平成25年度日本小児外科学会  
第6回定例理事会議事録

日 時：平成 26 年 1 月 27 日（月） 11：00～16：00

会 場：日本外科学会会議室

出席者：仁尾正記（理事長）、黒田達夫（副理事長）、濱田吉則（理事・会長）前田貢作（理事・副会長）、北川博昭、窪田正幸、松藤 凡、八木 實、漆原直人、米倉竹夫（以上理事）、岩中 督、田口智章、葦澤融司（以上監事）、菱木知郎（庶務委員長）、渡井 有（財務会計委員長）、吉澤穰治（財務会計副委員長）田中 拡、佐藤正人（庶務委員）、堀口裕輔（事務局）

欠席者：小室広昭（庶務副委員長）

議事案件：

議 事：

1. 第6回定例理事会の議事録署名人は、黒田達夫副理事長、北川博昭理事とした。
2. 平成25年度第5回定例理事会議事録につき、全会一致にて承認された。
3. 報告事項

1) 理事長報告（仁尾理事長）

仁尾理事長より以下の報告があり、了承された。

- (1) 難病のこども支援全国ネットワークからの冊子「がんばれ！Vol.141～142・臨時増刊号」を受領した。
- (2) 日本医学会からの冊子「日本医学会だより No.50」を受領した。
- (3) 日本医療機器産業連合会からの冊子「医機連ニュース第 83 号」を受領した。
- (4) 厚生労働省安全対策課からの冊子「医薬品医療機器等安全情報 No.306～308」を受領した。
- (5) 日本外科学会からの寄贈本「SURGERY TODAY Vol.43-No.11～Vol.44-No.1」を受領した。
- (6) 日本医療機能評価機構からの冊子「ニューズレター第 4 号～第 5 号」を受領した。
- (7) 日本医学会からの通信文「一般社団法人日本医学会連合 定款（案）」について、資料に基づいて、黒田副理事長より報告され、了承された。
- (8) National Clinical Database からの寄贈本「National Clinical Database を用いた医療資源の現状把握並びに適正配置に関する研究平成 24 年度総括研究報告書」を受領した。
- (9) 日本製薬工業協会からの冊子「製薬協ニューズレターNo.158～159」を受領した。
- (10) 日本医師会からの寄贈本「JMAJ Vo 1 .56-4」を受領した。
- (11) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局からの通信文「健やか親子 21 最終評価報告書の公表、及びこれを踏まえた取組の推進」について、北川理事より、「健やか親子 21」は事業終了となり、次期計画として「健康日本 21」という活動を推進していくことが報告され、了承された。なお、第 30 回日本小児外科学会秋季シンポジウムには「健やか親子 21」のロゴを使用するかどうかにつき、検討の結果、使用することが確認された。

- (12) 日本医学会からの冊子「2014年日本医学会分科会総会一覧」を受領した。
- (13) がんの子どもを守る会からの通信文「第18回シンポジウム開催報告と後援御礼」について、理事長より報告があり、了承された。
- (14) 日本医学会からのDVD「第144回日本医学会シンポジウム」を受領した。
- (15) 日本医学会総会からのポスター「第29回日本医学会総会2015関西」を受領した。
- (16) 日本医療機器産業連合会からの通信文「一般社団法人への移行のお知らせ」を受領した。
- (17) 外科関連学会協議会からの通信文「症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針に対し2学会賛同追加の報告」について、理事長より報告があり、了承された。
- (18) 日本専門医制評価・認定機構からDVD「第5回市民健康フォーラム」を受領した。
- (19) 医学書院からの寄贈本「医学研究者名簿」を受領した。
- (20) 日本専門医制評価・認定機構からの寄贈本「日本専門医制度概報」を受領した。
- (21) 先端医療振興財団臨床研究情報センターからのチラシ「厚生労働省 早期・探索的臨床試験拠点整備事業/臨床研究中核病院整備事業成果報告会」を受領した。
- (22) 第1回日本周産期精神保健研究会開催報告について、理事長より報告があり、了承された。
- (23) 日本医学会臨床部会運営委員会「がん領域に関する作業部会」からの問合せ「専門医制の上に、がん治療に関する別な専門医制を設置する必要性について」に関し、理事長より報告があった。総合調整委員会の審議結果も踏まえ、検討の結果、「日本小児外科学会としては、小児外科専門医の上部（三階部分）に、がん治療に関わる専門医制を設置する必要は無いと現時点では考える」と回答することが承認された。

## 2) 総合調整委員会報告（黒田委員長）

黒田委員長より、同委員会議事録資料に基づき第2回、第3回委員会の討議内容が報告された。

・学術集会の在り方について、

a.会場・コンベンション会社について、会長の意向や開催地の事情を十分尊重しつつ、大都市・近郊では会場の固定化やコンベンション会社との複数年契約による運営の効率化やコスト削減の方向性をとる

b.接遇について、名誉会員、特別会員、理事の宿泊費の学会負担に上限を求める、会長招宴の廃止を強く勧告するなどのコスト削減案を提言する

・秋季シンポジウムの在り方について、以前の少数の専門家によるシンポジウム形式に戻すことに賛成する意見が大勢を占めた。これに教育セミナーを抱き合わせる事で参加者数の確保をねらう意見も出された。さらにテーマの選択、会長の選任、PSJMとの連携方法など運営に関して討議を継続することとなった。

・適正な専門医の数について、地域性や施設の性格を反映したものを、NCDデータなどもふまえてさらに検討してゆくこととなった

・本学会の専門医の在り方について、小児外科医は小児の幅広い領域の手術に対応できる外科医であるという立場をとり、さらに細分化した小児腫瘍外科、周産期

外科などに関する認定資格は本学会では設けず、関連学会の認定資格との連携を図る方向性が提言された。

- ・ 第三者機構による専門医制度の方向性について、現状の情報共有が行われた。
- ・ 専門医制度卒業教育セミナーの在り方について、多くの学会でこれを専門医取得や更新の必須事項としていることを考慮し、新機構による専門医制度カリキュラムの中で本学会もその方向で検討して行くことでコンセンサスが得られた
- ・ NCD 運用経費負担について、NCD の財政状態、業務計画などが検討され、本学会としては財源確保の具体的な方法を模索する間は学会による負担は安易にうけられないこと、基盤学会と subspecialty 学会で二重取りになることをさけるために外科学会認定施設に負担を割り付けることを提案することが答申された。

### 3) 日本小児科連絡協議会（三者協）について（田口監事）

田口監事・葦澤監事より、第 158 回の日本小児科連絡協議会（三者協）に関して、資料に基づいて報告があり、以下の点、説明があり、了承された。

- ・ ICT の正しい使い方ポスター「スマホに子守りをさせないで！」の本会会員への周知依頼があり、国際・広報委員会にて検討することとなった。
- ・ 小児科連絡協議会より、「子どもと ICT、子どもたちの健やかな成長を願って」という新委員会を設立し、小児外科領域からの委員推薦依頼があり、本件については国際・広報委員会にて検討することとなった。
- ・ 無煙タバコ「スヌース」の危険性についての本会会員への周知依頼があり、国際・広報委員会にて検討することとなった。

## 4. 審議事項

### 1) 第51回学術集会について（濱田会長）

濱田会長より、公募演題総数は672題で、その内訳は一般演題314題、要望演題211題、国際セッション55題、ワークショップ36題、ビデオセッション32題、パネルディスカッション13題、研修医セッション11題であったことが報告された。なお、演題査読については1月末を締め切り目途（予定）に、メールベースで依頼・査読結果回収をすることが提案され、承認された。

また、通常抄録号は毎年3号であるが、学術集会会期が早いため、機関誌委員会と調整の結果、2号抄録号・3号通常号として進めていることが報告され、承認された。

日時：平成 26 年 5 月 8 日（木）、9 日（金）、10 日（土）

会場：大阪国際会議場 グランキューブ大阪

テーマ：『小さな命への新たな一歩』“Next First Step for Sick Children”

理事会、評議員会：平成 26 年 5 月 7 日（水）

### 2) 第52回学術集会について（前田副会長）

前田副会長より、資料を基に、プログラムの説明があり、運営会社については複数会社より相見積を取り、検討中であることが報告され、承認された。

日時：平成 27 年 5 月 28 日（木）、29 日（金）、30 日（土）

会場：神戸国際会議場

テーマ：全ては子ども達の笑顔のために：Challenge and Care（暫定）

理事会、評議員会：平成 27 年 5 月 27 日（水）

評議員懇親会：5 月 27 日 会員懇親会：5 月 29 日

3) 第30回秋季シンポジウムについて（前田理事）

前田理事より、資料を基に、準備状況の説明があり、承認された。

日時：平成 26 年 11 月 1 日（土）

会場：兵庫県立淡路夢舞台国際会議場

PSJM2014（平成26年10月30日（木）・31日（金））との合同開催

4) 庶務委員会（菱木庶務委員長）

菱木庶務委員長より会員動向について、以下の報告があり、承認された。

2013 年 12 月末現在の会員数は、評議員を除く正会員 1,883 名（うち海外 2 名）、評議員 317 名、名誉会員 54 名（うち海外 8 名）、特別会員 67 名（うち海外 1 名）の合計 2,321 名である。

5) 財務会計委員会報告（渡井財務会計委員長）

渡井財務会計委員長より基づき以下の報告がなされ、承認された。

- ・平成 25 年度会計中間報告が説明された。
- ・ホームページへバナー広告掲載について、学会として積極的に募集していくかどうかにつき、継続審議事項とする。
- ・PSI 購読について、現在の購読部数 230 部を増やした場合に、購読料の減額がどの程度あるかを Springer 社へ交渉・確認することとなった。
- ・年次報告書の過去書類について、当該書類を今後使用する必要があるかどうか、および保管料の削減もあることから、1996 年以前の書類は破棄溶解することが承認された。
- ・総会通知・出欠確認連絡オンライン化について、現在往復はがきを利用しているが、費用削減のため、委任状書式をホームページに掲載し、ダウンロードしたものを提出する方法が提案された。この場合に、定款上の運用に問題ないかどうか、確認し、継続審議となった。

6) 各種委員会報告

(1) 国際・広報委員会報告（仁尾理事長）

仁尾担当理事より、資料に基づき、会員への啓蒙を目的に国際協力の経験、魅力を伝えるべくホームページへ国際協力体験談を掲載していくことが提案され、承認された。なお、原稿依頼者は以下の予定である。

岡松 孝雄先生  
連 利博先生 (茨城県立こども病院) : ネパール  
窪田 昭男先生 (和歌山県立医科大学) : バングラデシュなど  
田口 智章先生 (九州大学) : パキスタン、カンボジアなど  
吉丸耕一郎先生 (九州大学) : ミャンマー、カンボジア  
石井 智浩先生 (近畿大学医学部奈良病院) : カンボジア

(2) 機関誌委員会 (北川担当理事)

北川担当理事より資料に基づき以下報告・提案があり承認された。

- ・投稿規定の変更について

削除→

投稿原稿は以下の形式に従ってください。

I. 原著, 症例報告, 総説

表紙

表題, 著者名, 所属機関名, 連絡先氏名, 郵便番号, 住所, 電話番号, FAX 番号, E-mail アドレス, 表および図の数, 別冊希望部数, 編集者への連絡事項 (原著, 症例報告, 総説のいずれに掲載希望かなど) を記入。

The manuscripts should be arranged as follows:

Title page

The title page is to include the article title, the name of each author, the institution from which the work originated, the full postal address of the institution, number of tables and figures, ~~number of reprints requested~~, acknowledgments, and category of manuscript. The exact and complete address, business phone number, fax number, and e-mail address of the author responsible for correspondence are also required.

- ・投稿原稿の用語参照元を日本医学会「医学会医学用語辞典Web版」利用も考え、日本医学会より個別に各団体に付与しているID・PASSで閲覧可能であり、投稿規定に追加することが提案された。なお、当該投稿規定変更に伴いメール配信及び会員HP上で会員に日本医学会より付与されているID・PASSで閲覧可能である旨を通知することを検討している。

ログイン画面 [https://jams.med.or.jp/reg/mdic\\_login.php](https://jams.med.or.jp/reg/mdic_login.php)

ユーザーID : shonigeka パスワード : shonigeka

用語参照元として、外科学会用語集に小児外科の用語を入れてもらった経緯があることを踏まえ、こちらを利用することが提案された。

- ・原著 (Original Articles) の定義は、新規性のある事象を論理的に説明している論文とし、最終判断は機関誌委員会で決めることが確認された。
- ・今年度の優秀論文賞として以下2論文が推薦され、承認された。

●原著:7号 直腸粘膜生検によるHirschsprung 病病理診断におけるcalretinin 免疫

染色の有用性の検討 服部 健吾先生 田附興風会医学研究所北野病院小児外科

●症例報告：5号 出生後に緊急手術を要した巨大な先天性線維肉腫の1例

西 明先生 群馬県立小児医療センター外科

- ・2014年4月からの消費税増税後の学会誌販売価格変更について、¥2,100を¥2,200に変更することが提案され、審議の結果、承認された。
- ・50周年記念誌の進捗状況として、4月末刊行予定のため、最終原稿は2月14日までに必要であり、調整中である。また、記念誌の一部をカラーとするかどうか、印刷はモノクロとして、カラーのデータをCDとして記念誌に付けるという方法もあり、継続審議中である。
- ・二重投稿に関する学会としての対応をホームページに掲載する文案が報告され、投稿規定12条二次出版の内容との整合性を機関誌委員会にて再確認することとなった。
- ・「医学研究および研究発表における倫理的問題に関する見解および勧告」・「症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針」について、時代に則した内容に修正したものが提案され、承認された。
- ・日本医学会からのアンケート「出版倫理から見た118分科会のCOIマネジメント」について機関誌委員会より回答した。

(3) 保険診療委員会（窪田担当理事）

窪田担当理事より資料に基づき以下報告があり承認された。

- ・2013年8月に新生児医療連絡会事務局長の和田和子先生から提案されたNICU加算日数に関する延長につき、厚労省への要望の準備として、各委員が所属するそれぞれの施設において、2013年の新生児外科症例の出生時体重、入院日数および挿管日数について調査を行った。その結果、新生児外科症例（合計121例）中、1500g以上の新生児外科症例は107例（88.4%）あり、その中でこの加算延長に該当する症例は14例（11.6%）あり、新生児外科症例の約1割は、今回の要望対象になりそうであることが判った。
- ・東北大学小児外科和田基先生より、「厚労省の医療上必要な未承認薬第三回募集」に関して、短腸症候群治療薬 GLP-2 (glucagon-like peptide 2) アナログ薬 商品名 Gattex, Revestive (NPS Pharmaceuticals)、一般名 teduglutideの申請依頼があった件につき、日本外科学会（外保連）から要望するかどうか、問い合わせた結果、日本外科学会から厚労省へ申請を行うことが承認され、12月26日付で日本外科学会から厚労省へ申請された。
- ・日本医学会からICD-10の一部改正案が届き、小児外科関連項目としては急性虫垂炎、痔核、meconium ileus、慢性腎臓病のみで、委員会メール審議を行い、特に問題ないという意見でまとまったため、その旨を日本医学会へ返答した。
- ・ICD-11小児科TAG担当の長崎大学小児科森内浩幸先生より、茨城県立こども病院工藤豊一郎先生を通じて当学会へ、ICD-11ドラフトの消化器疾患（chapter12）と先天奇形（chapter17）に関して、検討の依頼があった。当委員会ではメール審議を行い、検討結果として、RU0 (developmental anomalies of anal canal)の中のindependent itemとして記載するべきであるという意見を返答した。1月7日付、Perineal grooveの件も含めて、当委員会からの意見も採用された提案書が、ICD-11 小児科TAGで作

成され、WHO本部に送られることになった。

(4) 教育委員会（松藤担当理事）

松藤担当理事より、資料に基づき以下報告があり承認された。

- ・第30回日本小児外科学会卒後教育セミナー・第5回日本小児外科学会内視鏡手術セミナーのプログラム会告が、報告され、承認された。
- ・日本医学会分科会用語委員会の報告があり、了承された。
- ・小児外科卒前教育アンケート調査結果につき、総合調整委員会の確認を経て、修正した内容が報告され、承認された。当該結果については日本小児外科学会雑誌に掲載後、文部科学省へ要望を提出し、その提出事実とともにアンケート結果を回答者へ通知していく予定であることが確認された。

(5) 悪性腫瘍委員会（米倉担当理事）

米倉担当理事より、資料に基づき以下報告があり承認された。

- ・登録に関する倫理審査更新は、田尻委員長の施設倫理委員会審査を受け、その書類と承認書を地区センターへ通知し、各施設で継続審査することが提案され、承認された。
- ・データベース委員会にて、現在のNCD基本13項目に加えて、主な主要疾患についてsurgical outcomeを出せるよう二階建て部分のデータの構築であり、悪性腫瘍委員会からの要望を検討中である。
- ・委員会が保持しているデータに対する研究データの利用希望の対応については、委員会にて審議中である。

(6) 学術・先進医療検討委員会（八木担当理事）

八木担当理事より資料に基づき以下報告・提案があり承認された。

- ・新生児に関するアンケート一次調査の回収率は57.1%（290施設/508施設）であり、回収率向上に向けて、各委員にて未回答施設へ連絡していく予定である。
- ・新生児アンケート二次調査につき、一次調査で新生児症例ありと回答した施設へアンケート回答フォームとなるファイルメーカー（ランタイム版）のデータをCD-Rの形態で送付する予定である。
- ・他の学会、研究班からの診断基準、重症度判定、ガイドラインなどの評価および承認についての本委員会の業務案が提案され、承認された。
- ・日本小児科学会より小児慢性特定疾患治療研究事業対象疾患の「診断の手引き」作成に際して、胆道閉鎖症と先天性胆道拡張症についての評価依頼があり、委員会審議の結果、下記の意見があり、修正要望の上、承認することとなった。

両疾患の「確定診断は手術時（又は剖検時）の肉眼的所見（胆道造影像）に基づいて行う」は「確定診断は手術時（又は剖検時）の肉眼的所見と胆道造影所見に基づいて行う」の方が良いのではないかと。

両診断の病型分類で使用されている図表の引用文献を記載する必要はないのか。

(7) 倫理・安全管理委員会（漆原理事）

漆原担当理事より資料に基づき以下報告・提案があり承認された。

- ・鑑定人リストへの登録を指導医に依頼したが、回答者が少ないことからホームページを利用してさらに登録をお願いすることとなった。
- ・会員に向けた情報提供として、倫理・安全管理に関する情報（委員会便り等）をホームページに掲載していくことが提案され、承認された。なお、掲載文章については、理事会にて内容の審議をした上で、掲載していくことが確認された。ただし、内容について個人情報保護の観点等もあり、慎重に取り扱うことも併せて確認された。
- ・第51回学術集会における倫理・安全管理講演会講師は、大阪大学消化器外科学教授 土岐祐一郎先生へ依頼することとなった。

(8) データベース委員会（米倉担当理事）

米倉担当理事より資料に基づき以下報告・提案があり承認された。

- ・「臨床データの取り扱いに関する規定」の現状に見合った修正案が提起された。NCD以外のこれまで「学会が保有する臨床データ」の取扱いについては、学術先進医療委員会など他の委員会との意見も取り入れ、DB委員会にて追加検討することとなった。
- ・2012年度年次報告において小児外科の基本手術とみなされなかった術式についてNCDからの資料を提示した。またこれに対し前田前DB担当理事より、「2013年度NCD-小児外科術式対応表」をメール配信通知した旨、報告いただいた。
- ・NCD登録に関し、本邦の小児領域における surgical outcomes の質の評価と、これに基づく良質な医療提供システムの構築を目指し、小児領域の2階建て部分（医療水準評価項目）にあたる National Clinical Database-Pediatric (NCD-P) の構築を進めている。主要な手術（高難度手術）および新生児手術を対象としたもので、全手術数の約15%前後がその対象になる。将来的な国際共同研究を念頭に NSQIP-P をベースとし、新生児登録の項目を取り入れた形式のもので、現在その作成を進めている。
- ・また高難度手術の対象術式をリストアップし、NCD登録との術式の紐付け見直しを行っている。
- ・小児領域における「NCD臨床データの利用の要望依頼」に対し、NCDデータによる臨床調査研究（新規申請用）の書式案が提案され、承認された。
- ・小児虫垂炎に対するNCDデータを用いた臨床研究の依頼があった。これに対しては、学会事務局にDB委員会委員長宛に、「NCD臨床データの利用の要望依頼」の提出をする旨、依頼先へ連絡することとなった。

(9) 小児救急検討委員会（松藤担当理事）

松藤担当理事・黒田理事より、資料に基づき、以下報告・提案があり承認された。

- ・第4回小児救急セミナーについては、第51回学術集会会期中に「Damage Control Strategy」を予定である。
- ・PALS講習会は大坂ACLS協会のラボが使用できることが分かり、下記開催要案が提案され、承認された。この際、会場費は不要であり、かつ日本小児外科学会会員には参加費の補助



が得られ、これまで通りの金額で案内可能である。なお、実施にあたっては参加申込が1名であっても開催可能である。

主催:日本小児外科学会

共催:日本ACLS協会

開催日時:2014年5月5日(月)-6日(火)

開催場所:日本ACLS協会 大阪うめだトレーニングラボ

コースディレクター:川崎ECCTレーニンングサイト 島秀樹

インストラクター:日本ACLS協会所属のPALSインストラクターを現地で募集

経理・運営:日本ACLS協会川崎ECCTレーニンングサイト(サイト長:梶井良裕)

受講資格:有効期限内のBLSプロバイダーコースの有資格者/日本小児外科学会の会員

受講費用:¥32,000円 (下記2つの支持体で計¥10,000円の補填)

運営担当(川崎ECCTレーニンングサイト)で ¥5,000円

主催者(日本小児外科学会)で ¥5,000円

募集人数:原則として2ブース12名(要望が多ければ3ブース15名まで拡大)

募集方法:公募なし。クローズドに日本小児外科学会の学会サイト内及び機関紙上で募集。

申し込み方法:申し込みシートを用いて、日本小児外科学会に参加申し込み。小児外科学会事務局で集計した後、日本ACLS協会に一括申込。

集金方法:同様に日本小児外科学会で集金した後、一括支払い。

#### (10) 利益相反委員会(漆原担当理事)

漆原担当理事より、現在、委員会内で内規見直しを検討しており、次回理事会に案を提出する予定であることが報告され、承認された。

#### (11) ワークライフバランス検討委員会(窪田担当理事)

窪田担当理事より、資料に基づき、以下報告があり承認された。

- ・第51回日本小児外科学会学術集会のパネルディスカッション「専門医制度における課題」として妊娠・出産・育児・介護期間中の専門医資格継続(更新猶予規定)などに関する調査結果を含め、現状と今後導入される「認定登録医」制度について委員会として演題発表する予定である。なお、発表内容については専門医認定委員会にも内容確認を依頼している。
- ・ホームページでの広報として以下掲載を予定している。
  - a.ワークライフバランスに関するアンケート結果
  - b.村木厚子氏講演会の記事
  - c.ロールモデル紹介:女性小児外科医およびその上司、男性小児外科医(介護経験者など)へのインタビュー
  - d.各施設における男性医師も含めた労働時間の実態や、時短勤務(介護や育児支援)の具体例や問題解決策の紹介、キャリア支援策の紹介
- ・ワークライフバランスについての啓蒙活動、懇親活動

- a. 講演会開催初回としてPSJM開催期間中に村木厚子氏による講演会（参加者約80名）を実施した。講演会終了後のアンケートでは概ね好評であった。
- b. 会員間の懇親を図るとともに精神的なサポートにつなげるため、ワークライフバランス、男女共同参画、女性キャリア支援などに関心のある会員向けの懇親会（参加者35名）を企画した。
- ・ 他学会・海外の男女共同参画WGとの交流、ネットワークづくり  
日本女性外科医会（JAWS）への参加・交流として、平成25年11月23日の日本臨床外科学会開催中のJAWS朝食会に参加した。また、同日の日本臨床外科学会において委員会として演題発表「女性医師のキャリア支援および外科医のワークライフバランス改善に対する日本小児外科学会の取り組み」を行った。

(12) トランジション検討委員会（八木担当理事）

八木担当理事より資料に基づき以下報告があり承認された。

- ・ 具体的に移行期にかかる疾患に関し、委員より各担当領域の問題点が報告され、その上で、以下の問題点を委員会の共通認識としている。
  - 成人期になってから小児疾患を治療するにあたっての医療費の問題（患者、診療科ともに）
  - 成人診療科での受け入れの問題。手技は可能だが、その後は小児外科に戻ってくることが多いこと
  - 患者、家族、小児外科医がともに離れがたい気持ちを持っていること
  - 小児外科としてのトランジションはそれほど多くないことがわかったので、外科学会などにアピールし、成人外科医師も含めたジョイントシンポジウムなどを提案してはどうか。病態が理解しやすい胆道閉鎖症や胆道拡張症などから始めること
  - 小児科のWGに入っていくだけでなく、小児科学会ほかの学会研究会にも訴えかけ、小児科医全体に小児外科疾患の問題点を認識してもらい働きかけも必要なこと

家入委員：Hirschsprung病、類縁疾患

古賀委員：小児泌尿器疾患

佐々木委員：胆道閉鎖症、胆道拡張症

曹委員：先天性横隔膜ヘルニア、腸管不全

横井委員：気道疾患

脇坂委員：小児がん

渡辺委員：リンパ管腫

施設・病態担当委員は大学病院、小児病院、一般病院など施設種類による移行期の現状把握および問題点を洗い出す。

深堀委員：重症心身障碍児、大学病院

藤代委員：大学病院、トランジションセンターの在り方

渡辺委員：小児病院、成育医療施設

7) その他

(1) 日本専門医制評価・認定機構への加盟学会による意見書提出について（仁尾理事長）  
仁尾理事長より、資料に基づいて報告され、審議の結果、日本外科学会の subspecialty の立場として、日本外科学会と足並みを揃え、日本小児外科学会も意見書提出に同意することが承認された。

(2) NCD における今後の運営に関して（仁尾理事長）

仁尾理事長より、資料に基づいて NCD における今後の運営方法、特に維持経費の負担に関して、社員学会の費用負担が負担する案および NCD 参加施設が負担する案が説明された。審議の結果、日本小児外科学会としては社員学会が費用負担することもやむを得ないものとするが、NCD 参加施設にも応分の負担を求めるべきであるという立場で NCD へは意見回答とすることが承認された。

(3) 第 50 回学術集会および 50 周年記念事業会計報告について（岩中前会長）

岩中前会長より、第 50 回学術集会会計および 50 周年記念事業の収支計算書案が資料に基づいて報告され、審議の結果、承認された。監査を経た最終版については次回理事会にて報告予定である。

なお、50 周年記念事業に関する収支を次回評議員会にて報告することとなるが、当該報告には、記念誌発行費用も含めた収支報告とするため、その発行費用が収支計算書に反映することが確認された。

(4) 審議事項として準備していた「小児慢性特定疾患について（田口監事）」および「日本周産期・新生児医学会認定医制度について（窪田理事）」は時間の都合上、次回理事会審議事項とする。

8) 次回定例理事会の日程の確認について

次回理事会は平成26年3月28日（金）11：00～16：00TKP品川カンファレンスセンター ANNEXルーム3にて開催することが確認された。

理事長 \_\_\_\_\_

理事 \_\_\_\_\_

理事 \_\_\_\_\_